



題字は達増知事

平成29年3月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

U R L : <http://iwate.lin.gr.jp>E-Mail : info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷製



全力投球

全国農業協同組合連合会 岩手県本部

畜産酪農部長 後 藤 和 彦

月日の経つのは早いもので、ついこの前正月を迎え、酉年云々を言っておりましたが、もう3月になりました。もうすぐ岩手にも本格的な春が到来し畜産農家も忙しいながらも心弾む季節となります。

さて、平成28年度は、和牛子牛価格が2年連続高騰、前年同期比で25万円上がって、枝肉もそれに呼応し高値疲れ・頭打ち感あるものの高位相場が継続しており、酪農では27年度4月の乳価値上げにより厳しいながらも、明るい材料となり一息ついたところです。養豚も前半は26年度に近い相場となり、秋口より例年の相場となるも、底堅く推移致しております。これは差額関税制度の適正執行が大きな要因と思います。

我々全農岩手県本部は平成28年度より中期3ヶ年計画を組み、特に、畜産基盤対策と生産者の所得向上を基本に取り組んで参りますのでこの内容につきましてご紹介したいと思います。

第1には和牛繁殖基盤の対策であります。本県は全体として高齢化が進んでいるとはいえ約5,000戸の繁殖農家があり、その中でも産地の担い手となる中核農家の背中を押すような対策を講じて参ります。また、やはり繁殖農家は女性の力が非常に大事と考え、女性が生き生きと牛飼いが出来るような基盤対策も検討して参りたいと考えます。

また、肥育素牛の高騰による、県内肥育生産者が素牛導入困難の対策として、本会施設である和牛改良センターの哺育センター機能を強化し、県内酪農家の借り腹契約をして、和牛ET受精卵を移植、生産された子牛を2週間以内に引き取り、改良センターで生産された子牛と併せて育成し、県内肥育生産者に肥育素牛として市場価格より

も格安で供給する事業を10月より始めました。現在は15頭/月程度ですが3年後には40頭/月(年500頭を目標に)供給できるような取り組みをして、いって牛の維持・拡充にも貢献致したいと考えます。

更に、この取り組みを県内JAさんに広め、併せて行政の力もお借りしながら、和牛哺育事業の水平展開へと発展させて、数年後には、年間1,000頭の素牛供給が出来るような対策を構築しながら、増頭への気運を盛り上げて行きたいと考えます。また、その向こうには初妊牛供給など、その発展性は大きなものとなります。

これを現実のものとする為には、前述のハードは勿論ですが、技術者の育成・確保のための処遇改善なども重要に思っております。

第2には酪農基盤対策です。現在、852戸の酪農家が日々頑張っておりますが、上記の和牛ET事業に加え、牛床対策・導入対策等併せて地道に規模拡大のお手伝いを実施して参ります。

最後に、養豚ですが、県内養豚生産者数はこのところ、高相場の影響もあって減少が緩和されております。一方で、企業の生産をしている生産者の規模拡大も順調に進んでおり、これに呼応した岩手畜産流通センターの豚処理加工場の新設計画も進めております。牛肉に引き続き豚肉についてもHACCP対応により、輸出も見据えた取り組みとなります。

畜産酪農のすそ野は非常に広くて、飼料・動薬・処理加工・流通・小売り迄の経済効果は粗生産額の10倍にもなる重要な基幹産業でもあり、全農いわてとして、本県畜産酪農の振興に全力投球して参ります。

畜産春秋

もくじ CONTENTS

畜産春秋.....	1	畜産技術情報(59).....	7
「いわて牛の集い」「いわて牛枝肉共励会」盛大に開催.....	2	家畜の保健衛生(110).....	8
平成28年度岩手県獣医畜産業発表会.....	3	畜産の研究(106).....	9
ICT活用繁殖管理体系実証調査事業セミナー.....	3	ミルクシステムで乳質と収益性を向上.....	10
経営事例紹介.....	4	新たに確認された遺伝子疾患に注意.....	11
中心的な経営体の育成推進セミナー.....	5	購入方式も可能になった畜産クラスター機械導入事業.....	11
第3回牛飼いの女子会.....	5	子牛市場及び家畜市場成績.....	11
農用馬生産技術講習会.....	6	平成28年度総目次.....	12

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

「いわて牛の集い」「いわて牛枝肉共励会」盛大に開催

いわて牛普及推進協議会（会長：岩手県農林水産部長紺野由夫）が主催する「いわて牛の集い」は、首都圏の食肉関係者や飲食店等へいわて牛をPRすることを目的として、毎年1月に開催されています。

今年は、1月16日に東京都品川区の東京マリオットホテルを会場として、東京食肉市場の関係者や買参人、いわて牛取扱推奨店など招待者約120名のほか、地元からは達増知事をはじめ、県選出の国会議員、県議会議員、生産者、JA等関係者約130名が参加し、盛大に開催されました。

当日は、平成28年度新たに「いわて牛取扱推奨店」に登録された飲食店4店舗へ「いわて牛の看板」が贈呈されました。

また、「牛飼い女子会」の会員ら5名が、牛飼い女子グループの活動内容や生産の様子を紹介した後、女優の「のん」（本名・能年玲奈）さんがつなぎ姿で登場すると、一気に会場が盛り上がりました。

その後は、本県の郷土芸能「鹿踊」が東京鹿踊

のメンバーにより披露されるなど、趣向を凝らした取組で市場関係者をもてなしました。

会場では、いわて牛をはじめ、平成28年度にデビューした新品種のお米「銀河のしずく」、県産黒豚や南部かしわ、鮭・いくら・ほたて等の海産物など、岩手ならではの高品質な食材を用いた料理が提供され、特に、「いわて牛五ツ星」のステーキコーナーは、首都圏のホテルや外食産業の関係者から好評を博していました。

翌日の「いわて牛枝肉共励会」では、出品された60頭のうち、5等級36頭、4等級21頭となり、上物率は95%に達したほか、枝肉平均価格は2,670円/kgで、この時期としては高値での取引となりました。今回のイベントを通じ、市場関係者や買参人の皆様に、「いわて牛」の品質の高さを認知していただくとともに、生産者とユーザーの間の信頼関係が深まり、今後の取引拡大に大きく弾みがつくことが期待されます。

※いわて牛五ツ星：いわて牛の中でも、肉質5等級に格付けされた最高品質の牛肉

■受賞者名簿

	受賞者	所属農協	性別	父	生後月齢	BMSNo.	枝肉重量 (kg)	枝肉単価 (円/kg)
最優秀賞	竹田 直也	新岩手	去勢	百合茂	30.0	12	589	3,222
優 秀 賞	(南)千葉畜産	岩手ふるさと	去勢	芳之国	30.9	12	606	3,039
	武田 敏男	新岩手	雌	美国桜	29.7	12	576	2,980
	佐々木信行	いわて平泉	去勢	美国桜	30.7	12	517	3,035



牛飼い女子とのんさん



表彰式の様子

 <p>ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。</p> <p>くずまき交流館プラトール</p> <p>TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511</p>	<p>乳製品の自宅宅配承っております。</p> <p>ミルクハウスくずまき</p> <p>TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031</p>	<p>風車が回る高原の焼肉レストラン</p> <p>レストラン袖山高原</p> <p>TEL/FAX. 0195-68-2010</p>
<p>くずまき高原牧場特産品</p>	<p>くずまき高原牧場 一般社団法人 葛巻町畜産開発公社</p> <p>〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125</p> <p>TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755</p>	<p>〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125</p> <p>TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755</p>

平成28年度 岩手県獣医畜産業績発表会

1月18日と19日の2日間にわたり、岩手県水産会館（盛岡市）において、平成28年岩手県獣医畜産業績発表会が開催されました。

1日目の獣医部門は、家畜保健衛生所から12題と岩手県農業共済組合から2題の発表がありました。2日目の畜産部門では、普及センター及び振興局から4題、県立農業大学校から2題、公益社団法人岩手県農業公社から1題の発表がありました。

獣医部門で知事賞を受賞した演題「鶏脳脊髄炎ウイルス検出のための新たなPCRの検討」は、従来の検査法では検出できなかったウイルスにも対応できる検査法を試作したもので、伝染性疾病対策に欠くことのできないウイルス浸潤状況把握



藤代畜産課総括課長と受賞者の皆さん

への貢献が期待されるとして高く評価されました。

畜産部門で知事賞を受賞した演題「地域畜産の核として役割を発揮する公共牧場を目指して」は、乳用牛と肉用牛の両方を放牧していた県南地域の二つの公共牧場を、乳用牛と肉用牛のそれぞれに専用化し、料金体系の統一や牛白血病対策を取り入れることで、牧場の利用者数及び利用頭数を増加させ、さらには、牧場経営の改善にも結び付けたことが高く評価されました。

表 彰 名	演 題	受 賞 者
知事賞（獣医部門）	鶏脳脊髄炎ウイルスの検出のための新たなPCRの検討	中央家畜保健衛生所 五嶋 祐介
知事賞（畜産部門）	地域畜産の核として役割を発揮する公共牧場を目指して	一関農業改良普及センター 小川 音々
岩手県獣医師会長賞	乳用育成牛大規模預託施設における牛ウイルス性下痢・粘膜病対策	中央家畜保健衛生所 多田 成克
岩手県畜産協会会長賞	広域コントラクタによる飼料用トウモロコシ生産の取組	(公社)岩手県農業公社 佐藤 淳
岩手県畜産技術連盟賞	酪農総合支援体制による生産性向上の取組（第2報）	奥州農業改良普及センター 新井 勇児
岩手県農業共済組合長賞	切開手術を実施した黒毛和種子牛における感染性屈腱鞘炎の2例	NOSAI岩手東南部地域センター 田村 倫也

ICT活用繁殖管理体系 実証調査事業セミナー

和牛繁殖、頼りになる助っ人ICT

このセミナーは、情報通信技術（ICT）の活用により、和牛繁殖経営で最も重要な分娩後の早期受胎を実現し、生産性と収益性の向上を図ることを目的として、公益社団法人畜産技術協会（会長：菱沼毅）といわて肉用牛躍進運動推進協議会（会長：岩手県農林水産部畜産課総括課長藤代克彦）の共催で、1月31日（火）に岩手産業文化センターで開催されました。

まず、最初に発情発見装置“牛歩 Lite”の開発に携わった北里大学獣医学部動物資源学科助教の鍋西久氏から、「肉用牛繁殖経営における分娩間隔延長の要因と改善の近道」と題した基調講演が行われました。

鍋西氏の講演内容は、宮崎県畜産試験場に勤務していた時の、肉用繁殖牛の膨大なデータの分析から導き出されたもので、①分娩間隔の長短は分娩後初回人工授精実施までの日数の長短と密接に関係している、②発情発見効率が低い農家では分娩間隔が長い、③発情開始の約3／4は人が牛舎にいないときに起きている、というものでした。その上で、④発情発見装置は発情の見逃しを減らすために役に立つ、さらに、⑤飼養牛の繁殖デー



母豚2,000頭の一貫経営

・農場HACCP認証農場 ・良質豚ふん堆肥の供給
・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「みなみよ〜とん株式会社」

岩手町大字川口36-242-3
TEL 0195-62-9087 FAX 0195-62-9373
※精肉のご用命は岩手畜流会（食肉専門店）へ

タをスマートフォンで管理することで、より確実に繁殖管理を行うことができる、と結論付けていました。

続いて行われた実証成果発表では、元農研機構畜産草地研究所山地畜産研究部長の高橋政義氏から、“牛歩 Lite”を導入して実証に参加した3戸の農家の概要と繁殖成績の変化について説明がありました。3戸の農家とも分娩間隔が短縮したということでした。実証農家からは、①発情発見装置の導入によって以前より注意深く観察するようになった、②牛舎にいる子牛の数が増えて分娩間隔短縮の効果を肌で感じられる、と評価する一方で、③個体によっては装置でも発情が見分けにくい牛もいる、④装置に頼るのではなく併せて観察も必要だ、などの感想が話されました。

セミナーの締めくくりとして、鍋西氏や高橋氏、実証3農家に、岩手県家畜人工授精師協会会長の後藤太一氏と全農岩手県本部畜産酪農部生産指導課課長代理（獣医師）の丸田博氏が加わって

行われた総合討論では、①適期授精は望ましいが一定の幅があるので過度に神経質になる必要はない、②長期不受精胎対策として受精卵移植が成功することもあるので試す価値があると話されました。



基調講演中の北里大学獣医学部助教の鍋西久氏



実証成果発表中の高橋政義氏と実証農家の盛岡市玉山区の肉用牛繁殖農家(左から：大坊孝生氏、川倉孝氏、高橋昭夫氏)

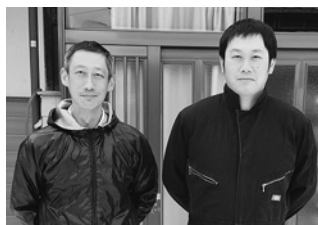
■ 経営事例紹介

ICTを活用して分娩事故防止

盛岡市門前寺独活倉 嵯峨美紀さん・裕紀さん

県道169号渋民川又線を渋民バイパス南口から南に車で数分行くと、道路の右側に「独活倉（うどくら）畜産」の看板が設置されています。ここが、今回紹介する嵯峨美紀さんのお宅です。嵯峨さんの家族は、母親と妻、長男夫婦、昨年8月生まれの孫の6人です。

嵯峨さんは、岩手県装蹄師会の会長を務め、「ベゴづくりは、ヒズメづくりから！」と装蹄の重要性を説きながら装蹄業を実施してきました。



嵯峨美紀さんと長男の裕紀さん

現在、装蹄業は、県立農業大学校研究科を卒業後に就農した裕紀さんが継承しています。

長男の裕紀さんが経営に加わり、労働

力が増えたことから増頭に取り組みました。平成19年には30頭規模の牛舎を整備し、その後、水稻育苗ハウスを牛舎に改築するなどにより、段階的に規模拡大を進めました。現在は、嵯峨さんご夫婦と長男の裕紀さんの3人で、和牛繁殖牛53頭、育成牛4頭、子牛30頭を飼養しています。

飼養頭数を増やす過程で、分娩、哺育・育成のスペースが十分確保できず分娩事故等が発生していました。この事故を少しでも減らそうと、給餌方法を変え昼間分娩を増やしましたが、事故はなくなりました。

そんなときに、情報通信技術（ICT）の一つである分娩監視装置（モバイル牛温恵）の実演機を2か月間借り入れることができ、4頭の分娩予定牛に着用しました。すると、外出中でも分娩予定牛の情報が携帯電話に入り、分娩に立ち会うことができました。この装置を導入してから、分娩事故は発生していないとのことでした。

人工授精は、裕紀さんが担当し、朝晩の発情兆候の観察を徹底することで、分娩間隔は12.3か月とほぼ1年1産を実現していますが、今後、飼養頭数が増えても、現在の繁殖成績を維持できるよ

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品

MPアグロ株式会社

本社：北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店：TEL 019(638)3291

う、受胎確認などのためのポータブル超音波画像診断装置の導入も検討しているとのこと。

このように、ICT技術導入に積極的な嵯峨さんですが、畜産関係の皆さんから幅広く畜産技術に関する情報を収集したいと考え、岩手県畜産技術連盟にも加入しました。また、経営の課題である子牛の発育改善のため、強化哺育にも取り組んでおり、地域で「強化哺育の研究会」のようなものがあれば参加し、さらに技術レベルを上げたい



と、経営の改善にも意欲を示していました。

牛舎内に設置された発信機から携帯電話へ、分娩予知情報として、分娩約24時間前には「段取り通報」、一時破水時には「駆けつけ通報」が発信されます。

中心的な経営体の育成推進セミナー

平成29年2月3日、盛岡市内のホテルで、公益社団法人中央畜産会主催の標記セミナーが開催されました。このセミナーは、T P P対策として国が創設した畜産・酪農収益力強化等特別対策事業（いわゆる「畜産クラスター事業」。以下「事業」という。）の一環として、事業実施主体の畜産クラスター協議会の構成員である「中心的な経営体」に、地域の畜産に一層貢献できるような素養を身につけてもらうことを目的として、東北6県を対象に開催されたものです。セミナーには、畜産クラスター協議会7団体から15名が参加し、そのうち本県からの参加は3協議会6名でした。

茨城県畜産農業協同組合連合会 中川 徹先生



まず、2題の講演が行われ、その後、質疑応答が行われました。最初、茨城県畜産農業協同組合連合会統括部長の中川徹氏から、「さらに儲け

る肉用牛経営のための地域ぐるみの取り組み」と題して、大子町和牛繁殖活性化クラスター協議会（茨城県）の取組事例と、肉用牛経営のポイント（①コスト削減、②収益性向上、③ブランド化）が紹介されました。次に、山形大学客員教授の吉田宜夫氏から、「稲 WCS と飼料用米給与上の留意点と諸課題」と題して、飼料用稲、飼料用米、稲ホールクロップサイレージなど、飼料生産組織と連携した畜産クラスターの取組事例が紹介されました。



山形大学客員教授 吉田 宜夫先生

他県での切り口の異なる取組に、本県の参加者にとっても今後の参考となるセミナーでした。



セミナー出席者による質疑応答

第3回牛飼い女子会

平成29年2月14日(火)、盛岡市のホテルで県内の牛飼い女子ネットワーク会員と関係者約140名が集い、平成28年度第3回牛飼い女子会が開催さ

れました。

開会の挨拶では、千葉茂樹副知事から、「牛飼い女子グループの元気な活動を、新聞や情報誌などで拝見し、本日の女子会を楽しみに来ました。今年9月に開催される全国和牛能力共進会（宮城県）での総合優勝を目指して頑張りましょう。」と励ましの言葉をいただきました。

今までもこれからも。「生命の未来」のために尽くしたい。

＜動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材＞

小田島商事株式会社

本 社 〒025-0311花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151(代)
花 巻(営) 0198-26-4700(代) 八 戸(営) 0178-34-2284(代)
大 船 渡(営) 0192-26-4740(代)

プレミックス工場 0198-26-4726(代) 家畜衛生食品検査センター 0198-26-5375(代) 大館(営)、横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

これに应运、グループのうち、ビーフレディースきたかみ（北上市）とミルクレディース（久慈市）から、今年度、商品開発に取り組んだ成果品として、それぞれ「いちごと梅のドレッシング」と「チョコレート風味のチーズケーキ」が副知事に贈られました。

参加した13グループの今年度の活動報告では、和牛主産地の宮崎県・鹿児島県への視察研修や削蹄研修会の開催のほか、地元のイベントでの生乳加工品の試食提供、小学校での出前講座などの取組について紹介がありました。今年度から活動を開始した県立農業大学校「農大牛飼い女子会」からは、手作りのモッツァレラチーズや小麦粉等を材料にした「オール農大産ピザ」づくりと農大祭での試食提供活動が、また、盛岡農業高校「モウモウ☆TeeNs」からは、大手コンビニとの共同開発によるミルクキャラメルづくりなどの取組が報告されました。副知事からは、「女性ならではの視点・アイデアに基づく取組が多く、また、忙しい中で活動し、成果を上げていることに感激しました。」とのコメントをいただきました。

会場からは「レシピを教えて欲しい。」、「コスト縮減に向け、飼養管理でどういう工夫しているのか。」などの質問も多く出され、活発な交流が行われました。

最後に、牛飼い女子写真コンテストの表彰式が行われ、「牛」、「家族」、「自然」の3部門で応募のあった65点の中から、6名の方が表彰されました。

平成29年度は、全県を対象とした牛飼い女子会に加えて、新たに、各地域でのミニ牛飼い女子会を開催し、更なるネットワーク構築を推進することとしています。



千葉副知事を囲んで記念撮影



活発な意見交換の様子



写真コンテスト授賞者の皆様

農用馬生産技術講習会

一般社団法人岩手県馬事振興会主催の農用馬生産技術講習会が、1月23日（軽米町）と2月1日（滝沢市）にそれぞれ開催されました。

講習会では、岩手大学農学部共同獣医学科繁殖機能制御学研究室教授の高橋透先生から、馬の繁殖管理について、基礎から応用まで幅広くご講演をいただきました。特に、受胎率を高めるための交配適期の見極め方、人工授精と自然交配の組合せ実施、反復自然交配による子宮内膜炎のリスク、ラ

イトコントロールなどについて、難解な学術用語を多用せずに、分かり易く解説していただきました。

ライトコントロール（ライト＝光、コントロール＝制御）については、日照時間の長くなる春に発情が始まるという馬特有の繁殖生理を踏まえて、人為的に、電灯で照明時間を調整し、発情を起こさせるというものでした。

生産者を中心に2日間で約50名が受講し、熱心に耳を傾けていました。



講師の岩手大学共同獣医学科
高橋透先生

- 共進会用 馬・乳牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・肉牛用牛衣
- 牛馬手入用毛ブラシ・根ブラシ・金ぐし
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんでい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承っております

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 **塩釜馬具店**

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393（労働福祉会館隣）

畜産技術情報(59)

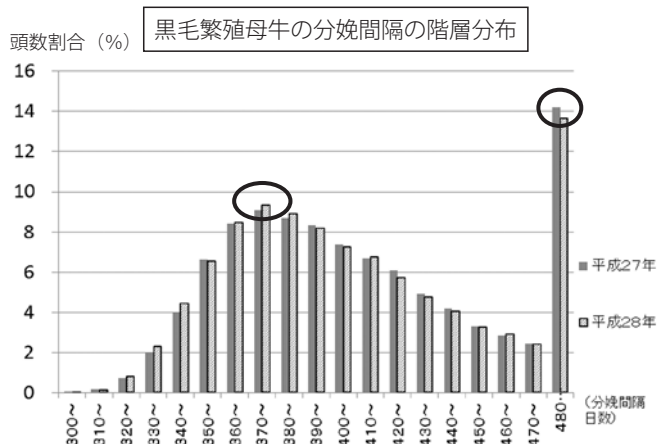
黒毛繁殖経営のさらなる生産性向上を！

子牛市場価格が高値で推移していますが、こんな時こそ、しっかり経営の自己点検を行い、繁殖・育成技術や牛舎環境の改善などにより、経営の**弱みは解消し、強みを伸ばし**、さらなる生産性向上を目指しましょう！「**好調な時ほど浮かれずに、改善を！**」です。

1 黒毛和種の分娩間隔の短縮について

平成28年の県内の平均分娩間隔は、416.2日と平成27年と比較して約1.5日短縮しましたが、岩手県酪農・肉用牛近代化計画の380日（平成37年目標）とは大きなひらきがあります。

下のグラフは、県内黒毛繁殖母牛の分娩間隔（日数）の階層別頭数割合を表したものです。かなり幅広い階層に分布していますが、長期化している部分を改善することが重要です。



※グラフは、全国和牛登録協会のデータを活用して作成しています。



写真1 明るい牛舎

2 このグラフから読み取れる傾向と対策（グラフの○印部分に注目して下さい）

- (1) 分娩間隔で一番頭数の多い階層は370～379日です。在胎日数を285日とすると、空胎日数は85～94日の階層がもっとも多いことになり、分娩後その時期に最もよく授精し、受胎していることを示しています。

この時期に授精できない原因は、

- ①発情を発見できていないのか（発情発見の手法が問題）
- ②発情がきていないのか（飼養管理の手法が問題）

のどちらか、又は両方です。

①の発情発見の場合は、毎日、牛の後ろに回り、尾を上げて粘液や外陰部の状態を確認しましょう。その際、電灯の追加等で牛舎内を明るくすると発情徴候を発見しやすくなります。

②の飼養管理に問題がある場合は、分娩前後の増飼を行い、母牛の栄養要求量を充足させましょう。摂取した栄養の配分は繁殖機能が一番最後であり、栄養不足では発情回帰が遅れてしまいます。

- (2) 分娩間隔480日以上が全体の14%近くいることも課題です。

分娩間隔の長い牛を早期発見し、早期に治療すること、場合によっては更新することがポイントになります。

そのためには、分娩約1カ月後の子宮粘液の清濁チェックや授精したけれども受胎しなかった牛を見つけるために妊娠鑑定を積極的に実施しましょう。

以上のことに留意しながら、1年間で1頭でも多くの子牛を生産し、効率的かつ収益性の高い黒毛繁殖経営を目指しましょう。



写真2 超音波検査による妊娠鑑定

家畜の保健衛生 (110)

飼養衛生管理基準の遵守と
定期報告書の提出について

平成28年11月以降、国内の家きん飼養農場において、相次いで高病原性鳥インフルエンザが確認され、感染拡大を防止する目的で多くの家きんの殺処分が行われました。本県では、ウイルスの侵入防止に万全を期すため、家きん飼養者に対して消石灰を配布し、緊急消毒を行い、厳重な警戒を要請するなど防疫対策を強化しています。

一方、牛では平成29年2月5日に韓国で約11か月ぶりとなる口蹄疫（O型）の発生が確認されました。韓国、中国をはじめとした東アジア地域において、現在も口蹄疫の発生が続いており、本県の侵入リスクが依然高い状況です。

このような中で家畜伝染病対策の柱の一つは、畜産農家での「飼養衛生管理基準」の遵守です。

そのポイントは次のとおりです。

飼養衛生管理基準のポイント

1. 衛生管理区域の設定と消毒の徹底

- 衛生管理区域とは畜舎や飼料タンク、飼料倉庫及び生乳処理室などを含む区域です。衛生管理区域は柵、白線、プランターなどを利用して区分し、立て看板などで不要な立入を制限しましょう。
- 衛生管理区域や畜舎の出入り口に踏込消毒槽を設置し、出入りする人の鞋底を消毒しましょう。また、消石灰帯や消毒薬噴霧器などの消毒設備を設置し、車両を消毒しましょう。

2. 最新情報の確認と立入記録の保存

- 家畜保健衛生所の講習会への参加や農林水産省のホームページ閲覧により、伝染性の発生予防に関する情報を積極的に把握しましょう。
- 農場へ立ち入った人や車両、導入した家畜に関する情報を台帳などに記録し、少なくとも1年間は保管しましょう。

3. 家畜の健康観察と早期通報

- 毎日健康観察を行い、異常が確認されたら直ちに家畜保健衛生所に通報しましょう。
また、万が一、県内で家畜伝染病が発生した場合には、広い範囲で迅速かつ適切なまん延防止対策が円滑に行われなければいけません。
そのために必要なのは、詳細な家畜飼養状況が記載された定期報告書です。

定期報告

家畜の飼養者は2月1日時点の飼養状況を毎年、定期報告書により提出することが義務付けられています。

1. 家畜の種類と提出期限

- 牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし ⇒ **4月15日締切**
- 鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥 ⇒ **6月15日締切**

2. 提出窓口

- 最寄りの家畜保健衛生所へ郵送、持参またはFAX
- 市町村、農協の畜産担当窓口に提出

3. その他

- 添付書類の農場の図面等は前年度と変更がなければ省略可能となりました。

畜産の研究 (106)

圃場管理システムを活用した作業記録と作業計画の作成

良質な粗飼料を効率的かつ低コストで生産するコントラクターやTMRセンター等の外部支援組織が県内で増えています。県内の外部支援組織が管理する草地は、中山間地に位置しており圃場が分散している場合が多く、綿密な計画による効率的な作業が肝要です。



一般社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵（IVF卵）、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器（MVE社製）を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

〒028-4134 岩手県盛岡市玉山区大字下田字紫沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334 <http://liaj.or.jp/morioka/>

しかし、粗飼料生産の作業は多岐にわたり、作業の記録と取りまとめだけでも大変な作業になります。

そこで、水田用に開発された圃場管理システム（Ｋ社製：KSAS）を使い、広域コントラクターの飼料用トウモロコシ収穫について、「刈取」、「運搬」、「投入、成形・密封、収納」、「バンカー踏圧」の作業時間等を記録し、その実用可能性を検討しました。

圃場管理システムの概要は、図1のとおりです。

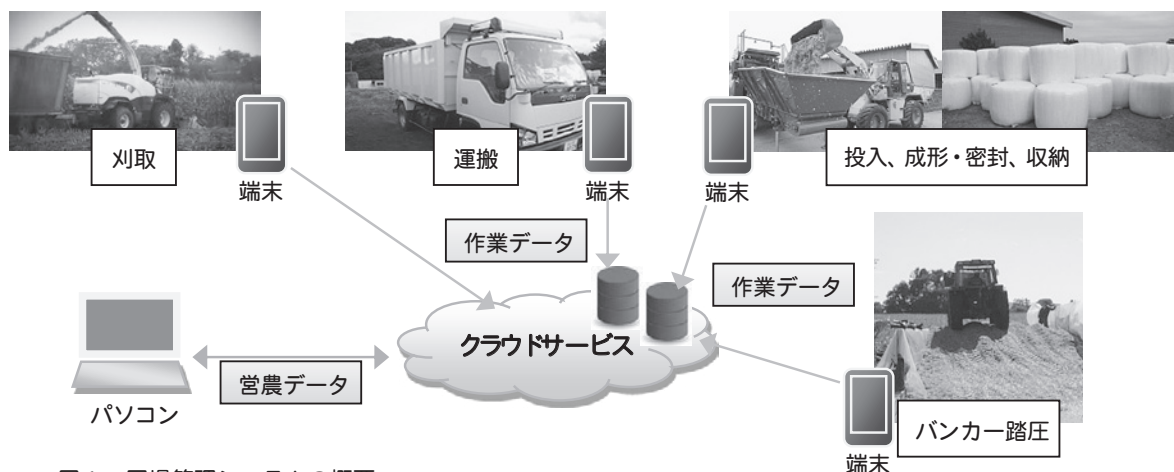


図1 圃場管理システムの概要

圃場管理システムは、オペレーターに専用端末（またはスマートフォン）を持ってもらい、作業の開始と終了時に簡単な操作をすることで、作業データをクラウドサービスに保存するものです。

記録の方法は、概ね次のとおりです。

①圃場の選択、②作業項目や機械、作付計画を選択し開始ボタンをタップ、③完了ボタンをタップして作業終了（図2）。

作業の前後で端末操作があるため、若干の煩わしさはありますが、慣れてしまえば簡単です。仮に、操作を忘れても、後からパソコンで位置情報を確認し修正できます。なお、専用アプリを使用できないスマートフォンでは、位置情報の利用が一部制限されますのでご注意ください。

操作性の高さや位置情報が利用できることから、手書きと比べ簡便で精度の高い作業記録を作成することができます（表1）。



図2 専用端末の操作画面

表1 圃場管理システムと手書きの比較

比較項目	圃 場 管 理 シ ス テ ム	手 書 き
作 業 記 録	端末でメニュー選択	野帳等に手書き
データ整理	記録と同時にクラウドサービスに保存 → 入力不用	パソコンに手入力 →180ha規模 TMR センターで約25時間 / 年
記録の精度	位置情報で確認が可能 → 精度の高い記録 が可能	記録の確認は作業者の記憶のみ →時間経過とともに精度低下

端末を操作すると、圃場管理システムに作業時間が記録されます。

作業時間は、圃場や作業内容、作業者、作業機械の作業毎に利用することができます。



**価格安定事業を通して
畜産経営のお手伝い。**

公益社団法人 岩手県農畜産物価格安定基金協会
〒020-0024 岩手県盛岡市菜園一丁目4番10号 第二産業会館2階
TEL 019-651-9634 FAX 019-624-5727
ホームページ：http://www.isop.ne.jp/iwnkikin/

この中から、自走式ハーベスタの稼働状況に着目して、作業体系別に作業効率と稼働率を算出したのが表2になります。

表2のとおり、作業体系によって作業効率や稼働率に差があるのが分かります。コンビラップ1台体系では自走式ハーベスタの稼働率が半分しかないの、来年はバンカーを併用して効率を上げよう、などといった計画案が考えられます。

表2 自走式ハーベスタの作業効率、稼働率の算出結果（H27-H28実績の一部を集計）

作業体系	農家数	戸当たり圃場面積 (ha) a	作業時間* (h) b	作業効率 (ha/h) c=a/b	稼働時間* (h) d	稼働率 (%) e=d/b
コンビラップ1台	11	8.8	13:17	0.67	6:15	47.1
バンカー	6	5.7	7:10	0.80	6:45	94.2
コンビラップ2台	2	5.5	4:30	1.22	4:22	97.2

※作業時間＝オペレーターが自走式ハーベスタに搭乗している時間

※稼働時間＝自走式ハーベスタの実稼働時間

作業体系以外にも運搬台数や一圃場あたりの面積、圃場までの距離、単収などによって作業効率・稼働率は変化します。これらを数値化することで、より効率的な作業計画を作成し、作業面積を拡大することも可能となります。

農畜産物生産では、作業効率の改善にもつながる圃場管理システムの利用はとても有益です。是非、使ってみてください。

ミルキングシステムの定期診断で乳質と収益性を向上

当協会では、ミルキングシステム診断事業を実施しています。この事業は、搾乳機器やバルククーラーの状態を精密に検査して、異常な箇所あるいはそろそろ手当が必要な箇所を見つけ出し、改善策を提案するものです。人と言え、通常の定期検診より人間ドックに近いものです。

ミルキングシステムは機械です。その機械は搾乳時、牛の乳頭につながります。ミルカーが開発される前までは、人が手で乳を搾っていましたが、今では、機械による吸引搾乳が行われています。ミルカーは、乳頭に間欠的に陰圧をかけます。陰圧は強すぎても、弱すぎてもよくありません。程よい陰圧が安定して、程よい間隔で働くことがミルカーに求められます。機械としてのミルキングシステムは、数多くの部品から成り立っています。設置した時点では、すべての部品は新品で、圧力系統も最適な状態に調整されていたと思いますが、精密な機械と言って

も、長い間にはずれが生じてきますし、部品の劣化は避けられません。ミルキングシステムに微かな狂いを生じたまま搾乳を続けると、機械がつながっている部分である乳頭に悪影響を及ぼします。乳頭口や乳頭槽の壁（粘膜上皮）を傷つけることは、乳房炎の下地を作ることになります。

当協会の行うミルキングシステム診断は、先進地北海道の乳質改善協議会が認定した技術者により実施されています。平成28年度には、県内酪農家の受診率は約4割で、そのうちの6割弱に何らかの問題が見受けられました。主な問題点は下の表のとおりです。まずはこの問題（異常箇所）を見つけることが改善への第一歩です。多くの酪農家の皆さんに利用してもらい、乳質と収益性向上に結び付けていただきたいと思います。平成29年度のお申込みは、各JAの担当者をお願いします。

■診断で見つかった問題点上位5位

ミルキングシステム		バルククーラー	
プラント全体のエア漏れ	50.1%	コックゴム・パッキン	29.2%
パルセータ拍動数	41.1%	タンク内外洗浄	14.3%
真空ポンプ能力	32.6%	コック汚れ	10.7%
真空配管管径・勾配	29.5%	コック分解洗浄	10.1%
パルセータ拍動比	29.5%	冷凍機設置場所換気	10.1%



液体窒素、凍結精液保管容器を通じて
畜産界にお手伝いをしています。

東邦岩手株式会社

本社 紫波郡矢巾町大字藤沢第10地割136番地 TEL (019) 697-4151(代)

盛岡営業所 盛岡市みたち二丁目1番45号 TEL (019) 641-1195(代)

ホームガスセンター 盛岡市みたち二丁目1番45号 TEL (019) 641-3143(代)

宮古営業所 宮古市大字赤前第4地割108番地3 TEL (0193) 67-2445(代)

金石営業所 金石市新浜町一丁目2番11号 TEL (0193) 22-0540

水沢営業所 水沢市字八反町82番1号 TEL (0197) 25-8033(代)

新たに確認された遺伝子疾患に注意

平成29年2月7日付けで、一般社団法人家畜改良事業団（以下「事業団」という。）から、『乳用牛の遺伝的不良形質「ホルスタイン種コレステロール代謝異常症（HCD）（仮称）」に係る保因種雄牛精液の配布中止について』という文書が届きました。

この病気は、平成27年7月にドイツで発見されたもので、その後に確立された検査方法を用いて、国内で使用されている種雄牛を検査したところ、原因となる不良遺伝子を保有するもの（保因種雄牛）が確認されたとのことです。事業団も構成員となっている家畜人工授精事業体協議会では、今後、保因種雄牛の精液配布を中止することなどを決めました。

また、この病気は父方と母方の両方に不良遺伝子がある場合のみに、25%の確率で発病（劣性遺伝）します。症状は、慢性的な下痢で、症例の写真を見る限り、著しい消瘦が見られます。健康状態が悪化し、ほかの病気にかかりやすくなって、生後3週間から半年程度で死亡するとされています。

なお、今飼っている雌牛が仮に保因していたとしても、これから交配する種雄牛が保因していない限り、生まれてくる子牛がこの病気にかかることはありません。保因種雄牛については、当協会のホームページに掲載していますので、ご確認ください。

購入方式も可能になった 畜産クラスター機械導入事業

機械導入事業ではこれまで、リース方式での導入でしたが、平成29年度事業から新たに、購入方式での導入が可能となりました。これにより、畜産農家等が購入方式とリース方式のいずれかを選択できるようになります。なお、購入方式を希望する場合は、リース方式の場合と異なる手続きが必要となります。

手続きの方法：事業実施要領 別紙2 第5の3の(3)

事業実施要領等の入手方法：農林水産省のホームページ

【アドレス：http://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/27_kura.html】

平成29年2月和牛子牛市場成績（税込）

（全農岩手県本部）

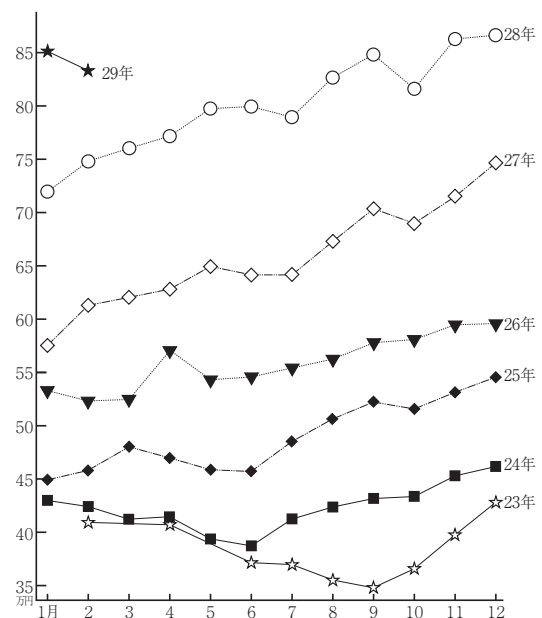
市場 (月日)	上 地 場 域	性別	頭数	最 高 (円)	最 低 (円)	平 均 (円)	平均 体重	kg当 単価
県南 2/8 (水)	胆 江 気 仙	♀	117	1,435,320	602,640	793,375	286	2,775
		♂	178	1,331,640	531,360	912,649	322	2,830
		計	295	1,435,320	531,360	865,344	308	2,810
県南 2/9 (木)	磐 井	♀	116	1,136,160	590,760	806,872	285	2,834
		♂	1	610,200	610,200	610,200	341	1,789
		♂	161	1,344,600	66,960	909,119	317	2,866
		計	278	1,344,600	66,960	865,379	304	2,849
中央 2/15 (水)	滝 沢 平 石 八 平 玉 山 岩 手 葛 巻	♀	146	1,151,280	563,760	748,788	275	2,721
		♂	248	1,410,480	494,640	901,378	310	2,908
		計	394	1,410,480	494,640	844,834	297	2,843
中央 2/16 (木)	紫 波 盛 岡 花 巻 北 上 遠 野	♀	142	974,160	578,880	744,599	290	2,564
		♂	217	1,122,120	575,640	869,644	320	2,714
		計	359	1,122,120	575,640	820,183	309	2,659
中央 2/17 (金)	宮 古 北 部 奥 山 久 慈 改 良	♀	157	973,080	548,640	712,497	281	2,538
		♂	187	1,244,160	343,440	837,849	316	2,652
		計	344	1,244,160	343,440	780,639	300	2,604
合 計		♀	678	1,435,320	548,640	757,139	283	2,674
		♂	1	610,200		610,200	341	1,789
		♂	991	1,410,480	66,960	885,723	317	2,797
		計	1,670	1,435,320	66,960	833,355	303	2,749

※1 平成28年度の中央市場上場順は、次のとおりです。

（前年 3日目→1日目、1日目→2日目、2日目→3日目）

※2 中央市場の売買対比及び増減については、上記※1に準じて算出いたします。

子牛価格の推移



平成29年2月岩手県内指定家畜市場取引成績

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会

区 分	指 定 肉 用 子 牛		
	頭 数	金 額	平均価格(1頭当り)
黒 毛 和 種	頭 1,045	円 839,318,760	円 803,176
交 雑 種・乳	3	1,071,360	357,120

(注)：金額、平均価格は消費税込み

岩手の畜産 平成28年度 総目次

右側の数字は、「(掲載月)～(ページ)」を示しています。
記事は、岩手県畜産協会のHPでもごらんいただけます。

畜産春秋

- 年頭のご挨拶 県畜産協会会長理事 田沼征彦……………1-1
農政新時代～努力が報われる農業の実現に向けて～
県農業会議会長 佐々木 和博……………3-1
ピンチをチャンスに！ 県農業公社常務理事 沼崎 光宏…5-1
会長理事就任のご挨拶 県畜産協会会長理事 藤尾 東泉…7-1
基幹産地食肉センターの将来像
岩手畜産流通センター 代表取締役社長 村川 健一…9-1
“収益アップ”果敢に挑戦！
県農林水産部畜産課総括課長 藤代 克彦……………1-1

ご寄稿

- 学校給食用牛乳を提供して分かったこと
～学校で食べる給食は誰のため、何のため～
岩手県牛乳事業協同組合理事長 溝渕 郁夫……………7-7

畜産行政・経営情報

- 平成26年度に実施した経営診断の概要(肉用牛部門)……………1-3
(南)コマクサファームが最優秀賞受賞！……………1-6
川又紀元氏が農事功労者表彰を受賞……………1-9
畜産クラスター事業(機械導入事業)説明会開催……………3-7
新しい岩手県家畜改良増殖計画の概要……………5-3
新たな岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画の概要について…7-3
畜産近代化リース協会リース事業のご案内……………7-10
牛マルキンにおける日本短角種の地域算定実施について…7-12
平成26年度畜産経営事例調査結果(岩手県)
〈酪農経営・去勢若齢肥育経営〉……………9-6
事例紹介：水田放牧による和牛繁殖の規模拡大
(奥州市 菊池忠孝さん)……………9-8
平成26年度畜産経営事例調査結果(岩手県)〈和牛繁殖経営〉…11-3
モットー君通信簿の活用でモウッと増頭！モウッと増収！…11-4

各種総会等

- 平成27年度臨時総会の開催……………5-2
第84回定時総会……………7-2
岩手県馬事振興会の定時総会……………7-4
岩手県養豚振興会通常総会及び養豚経営研修会の開催…7-4
岩手県チキン協同組合の通常総会……………7-8
岩手県獣医畜産業績発表会
平成27年度岩手県獣医畜産業績発表会……………3-3
【知事賞】銘柄牛産地維持のための繁殖牛生産振興の取組…5-5
【知事賞】飼養衛生管理基準巡回指導を活用した
全養鶏場防疫措置データベースの構築……………9-3
【畜産協会賞】乳質検査を活用した乳質改善の取組……………9-4
【畜産技術連盟賞】ビッグデータを活用した和牛繁殖農家の
生産性向上支援……………11-6

畜産技術情報

- 分娩監視の省力化パート2……………1-11
牧草地の管理……………3-9
飼料用トウモロコシの除草剤散布と追肥について……………5-9
チモシー1番草刈り取り後の施肥の重要性/今年も暑熱対策の徹底を…7-11
飼料用トウモロコシの収穫/牧草の収穫……………9-11
カメラ設置でラクラク分娩看視……………11-11

家畜の保健衛生

- 子牛の呼吸病を予防しましょう……………1-12
定期報告書を提出しましょう……………3-10
黒毛和種子牛の早期母子分離による牛白血病対策……………5-11
平成27年度岩手県内の監視伝染病発生状況について……………7-9
夏の鳥インフルエンザ対策について……………9-9
BVD-MD対策の一步……………11-9

畜産の研究

- 飼料用トウモロコシ栽培における土壌中交換性カリ含量
に応じたカリ施用量と堆肥によるカリ代替効果……………1-9
飼料用米及び大豆WCSを活用した飼料自給率の
高い乳牛の飼料給与技術……………5-10
黒毛和種妊娠牛の冬期屋外飼養技術について……………9-9
春期牧草播種技術と秋の追播による植生改善技術……………11-10

共進会

- 第59回岩手県畜産共進会「肉牛の部」終了……………1-5
第14回全日本ホルスタイン共進会で本県代表が面目躍如…1-6
2016岩手県B&Wショウ開催……………7-5
第60回岩手県畜産共進会 黒毛和種の部……………9-2
第60回岩手県畜産共進会 馬の部、肉牛の部……………11-2

イベント情報等

- 惣菜製造技術共励会(発表会)が開催されました……………1-7
第2回牛飼い女子会・女性リーダー研修会開催……………1-8
高病原性鳥インフルエンザ発生に備えて講習会を開催…1-8
「いわて牛の集い」盛大に開催……………3-2
平成27年度いわて肉用牛生産性向上研修会……………3-3
平成27年度家畜繁殖技術講習会(受精卵移植スキルアップ研修)開催…3-4
平成27年度牛群検定セミナー開催概要……………3-5
平成27年度牛白血病防疫推進講習会開催……………3-6
平成27年度ミルクシステム診断事業推進委員会開催される…3-8
農用馬飼養者講習会・技術者講習会……………3-12
春の風物詩「一歳馬せり共進会」、軽米で開催……………5-7
第3回牛飼い女子会の開催……………5-8
第19回全国闘牛サミットin久慈大会記念闘牛大会……………7-6
くずまき高原牧場まつり開催……………7-8
平成28年度第1回牛飼い女子会……………9-8
全国やぶさめ競技第10回遠野大会……………9-9
第9回岩手県割蹄競技大会が開催されました……………9-12
平成28年度いわて肉用牛若手・後継者技術向上研修会…11-5
第28回東北地区牛割蹄競技大会……………11-8
平成28年度北日本養鶏研究大会……………11-8

鳥 チョウ
うまい!!!

新鮮 安心 ヘルシー
岩手県産チキン!!

岩手県チキン協同組合

岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-47

TEL 019-624-2870 FAX 019-625-0486